

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 616 号] 2013 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 <http://bachchor-tokyo.jp/>  
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604  
Mail: [office@bachchor-tokyo.jp](mailto:office@bachchor-tokyo.jp) ([bachchortokyo@aol.com](mailto:bachchortokyo@aol.com) 2013 年 2 月閉鎖)

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 616

October 2013

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## カンタータ第 76 番の主題

### 「盛大な晩餐会のたとえ」について

(ルカによる福音書 第 14 章 15～24 節)

小海 基 (荻窪教会牧師、団員・テノール)

次回定期演奏会の曲目であるカンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》は、中間に牧師の説教を挟んだ全 14 楽曲の構成として残された大きな作品です (演奏時間約 30 分)。

12 月の本番を迎える前に、私たちはこの全曲を、今夏、野尻湖畔のチャペルで披露してきました。合宿 2 日目の練習では通しのリハーサルが行われましたが、その際、バッハの指定による本来の位置で、団員の小海牧師に、主題聖句に対する小さな解説をお願いしました。以下は、その折のレジュメに加筆していただいたものです。

カンタータ第 76 番のテーマ聖句であるこのたとえ話は、イエス・キリストの語録集であったと言われる「Q 資料」から採られたものと推定されています。最も古いマルコ福音書に沿って、それにそれぞれの独自資料を加えて、マタイとルカの両福音書が書かれたことは、読み比べてみるとはっきりしています。その加えられた独自資料の中で共通の部分が、すべてイエス・キリストの説教や発言の部分ですので、2 千年たった現在でも発掘されていないけれども、おそらくイエス・キリストの語録集「Q 資料」があり、初代教会で出回っていたであろうという定説にほぼなりつつある仮説です。この「盛大な晩餐会のたとえ」は、ですからマタイによる福音書第 22 章 1～24 節にも載せられています。

ここからが興味深いことです。自分たちの主イエス・キリストの語録集からの引用というのですから、普通なら、引用する時に恐れ多くも最小限にしか手を加えまいとするものではないでしょうか。ところが同じ「盛大な晩餐会のたとえ」なのに、ルカによる福音書第 14 章 15～24 節とマタイによる福音書第 22 章 1～24 節とではずいぶんと違うのです。こんなにも「Q 資料」の引用が両福音書で違うたとえ話も珍しいほどです。読み比べてみてください。

マタイでは王子様の婚宴の晩餐会であり、招待を告げに来た王様の家来を殺したとか、頑なに応じようとしない客たちに怒って王様は軍隊を送ってその人たちを滅ぼし町を焼き払う……と言った調子で、スケールも壮大ですが、王様も神様をたとえているにしてはジョッキングなほどに残忍です。最終的に無理やり集められた招待客の中には善人ばかりでなく悪人もいるという具合です。

バッハが選んだルカの方はもう少し身近な晩餐会です。招待者が断るにも理由を述べています。畑や牛を買ったからとか、結婚したので……と言った具合です。

マタイとルカとどちらがイエス・キリスト自身が語られた元のたとえ話に近いと言えば、それはルカの方であることがはっきりしています。「グノーシス」(知識という意味) 派と研究者が読んでいる初代キリスト教の異端グループにコプト語 (北アフリカの言葉) で伝えられた「トマスによる福音書」(こんな異端に伝えられた文書まで日本語で読めるようになりましたが、この中には正統派キリスト教に伝えられていないイエス・キリストにさかのぼるであろう語録が他にもたくさん収められている重要文書です!) 64 にも、ルカとほとんど変わらない「盛大な晩餐会のたとえ」があるからです。招待を断る理由が違うくらいです。

マタイの記事は、マタイによる福音書がいつ書かれたかということを示す重要な箇所とされています。つまり、こんなにも元のたとえ話を変えられたのは、紀元 70 年にローマによってエルサレムが滅ぼされたユダヤ戦争を目の当たりにし、その出来事を最初の「盛大な晩餐会」の正式な招待客であったユダヤ教徒への裁きと受け取ったマタイの加筆だということです。しかもあとからどさくさで晩餐会に集められた客 (キリスト教徒) の中には善人ばかりでなく悪人もいるわけですから、初代教会で起こった異端問題も反映しているというわけです。つまりマタイ福音書の成立年代はどんなに古く見積もっても、紀元 70 年以前になることは無く、しかも教会内に異端問題が多くクローズアップした時代以降だということになり、かなり遅い成立の決定的証拠を示す箇所の一つとされたわけです。

バッハが採用した、というよりはおそらくその日の聖書日課で指定された (当月報掲載の「バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑧」参照) ルカのテキストは元のイエス・キリストの言葉に近く、それはマタイのように裁きの話が中心でなく、私たちが既に招かれている晩餐会 (救い) がどんなに素晴らしいものであるかよく分かっていないという話です。そもそも招かれていた人たちは、実はたいしたことのない自分の支配欲、物欲で頭も心もいっぱいになってしまっていてこの恵みの招待を断ってしまう。どさくさで集められた人も、どれだけすごい晩餐会かあまりピンと来ていない、という話です。もっともこのカンタータの前半の中でバッハは、人間の欲望やサタンの誘惑を退けて、天も大空

## 2013 年夏合宿に参加して

久保庭 重夫 (団員・バス)

今回の課題はカンタータ第 76 番全曲を合唱団が歌う事でした。いったい大村先生はいつからあんな難しいアリアまで合唱団に歌わせようと思ったのでしょうか？ 安上がりではあるが演奏の質は落ちるし、だけど質を落とすような妥協をするとは思えないし。

合宿前までは、この 76 番はコーラル以外ほとんど歌えない状態でしたが、終わってみれば思ってもみなかったほど気持ちよく歌えて、演奏録音をあとで聞いてみると蟬の鳴き声をバックに弦楽器とピアノのすばらしい伴奏に支えられとても良い演奏になっていました。

ポイントは 2 つ。一つは合宿という効率よく集中して練習が出来る環境と、特にパート練習も出来たこと。もう一つはピアノに加えて弦楽器の伴奏に乗せられたこと。実際、あんな間近で聞くチェロとヴァイオリンの音色にはしびれましたが、自然に歌にも乗ってしまいました。

バッハ以外の曲もあり、これも楽しみました。今や定番になったシューベルトの「水の上で歌う」、そしてシャンソンの「枯葉」など。「枯葉」は 76 番のアルトのアリアに似ていることから、枯葉の作曲者コズマはバッハから想を得たのでは、などの説が出て来たり！

ミニコンサートでは 6 チームが日頃の腕を披露しましたが、毎回同じ顔ぶれで、せっかくの良い機会なのでもっと他の人も気楽に挑戦してみたらよいのではと思います。

最後に、今回はアルトの方々が幹事役で世話をして下さいましたが、特に風岡さんにはパート指導までもして下さい本当にありがとうございました。

も自然界にさえも備えられている神様の晩餐会への招待を告げる言葉に素直に耳を傾けるように祈っていますし、後半ではこの晩餐会の恵みにあずかった人たちがこんどは積極的に出て行って愛のわざ(心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして神を愛することと、自分を愛するように隣人を愛することだと大村恵美子先生が模範回答していたのが、ユダヤ教的にもキリスト教的にも模範解答だと思います！)に励む決意へと進むわけです。あくまで私の想像ですが、バッハの活躍した時代のバリバリのルター派正統主義からすれば、神の恵みに応えて神の業に励むという後半の倫理的展開は、ひょっとするとややカルヴァンの、改革派的、律法至上主義的、教条的に感じられたかもしれません。バッハの敬虔主義的な面がまた響きだしたと眉を顰められたかもしれません。

私は牧師として思うのですけれど、バッハのカンタータは残されていますけれど、説教の原稿は失われているので、当時の牧師がこの美しい内省的なシンフォニアの前にどんな説教ができたのか興味深いです。せいぜいの所、「神様からの偉大な晩餐会の招待が、皆さんにも届いていることに気づきませんか。呼びかけが聴こえませんか」と問いかけるのが精一杯だと思うのです。「結局最後にはどちらにしても畑や牛や自分たちの結婚式の晩餐会の手配で忙しくあたふたしてしまうのだけれども、天も大空も自然の全ての物が語っている神の晩餐会の喜びから自分たち非日常の忙しさに出発していくのでは、内容は全然違う者になるのだ」と、マルタとマリヤ姉妹の話(ルカ 10:38~42)と重ねながら語ることになるのでしょうか。それならそんなに長い説教は必要ないし、長くなればなるほど蛇足になってこのカンタータの持ち味を壊しかねない。当時の説教者も大変だったろうなと思います。私は今回は歌う側で良かったとつくづくと思います。

### <次回公演予告>

第 109 回定期演奏会 創立 50 周年記念公演 [4]  
バッハ 4 大合唱作品 [日本語] 連続演奏

2013 年 12 月 7 日 (土)、13:30 開演  
杉並公会堂大ホール

教会カンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》  
《クリスマス・オラトリオ》第 IV・V・VI 部

光野孝子 (S)、佐々木まり子 (A)、鳥海 寮 (T)  
藪西正道 (B)、東京カンタータ室内管弦楽団  
草間美也子 (Org)、東京バッハ合唱団  
大村恵美子 (指揮)

◆チケット、発売しました (全席自由席)  
前売り券 3500 円 / 当日券 4000 円

### チケットお申込み: 合唱団事務局

①枚数、②お名前、③お送り先住所、④連絡先 TEL/FAX または Mail を明記。折り返し、郵便振替用紙同封にて郵送します。

●チラシの裏面に、FAX 用の申込みフォームあり。

●その他、電話、メール、ホームページから、などでお申込みください (申し込み先: 上掲、月報タイトル囲み内参照)。



■写真提供: 岡村 隆氏 (団員)

## 息のあるものは みな・・・

佐藤 啓子 (団員・アルト)

私は今年の6月に入団したばかりの新参者ですが、8月の野尻湖強化合宿、神山教会の「野尻湖コンサート」3泊4日の全日程に、初めて参加させて頂きました。現地集合、現地解散ということで、どこかに不安な気持ちも抱えていました。今年は例年のない猛暑、避暑地野尻湖といえども、皆、汗をかきかき、暑さとの戦いでした。

さっそく、大村恵美子先生のエネルギッシュな練習が始まりました。初心者の方は、先生のご指導のもと、先輩方の後についていくだけで大変でした。2日目からは、東京カンタータ室内管弦楽団から2人の演奏者、ヴァイオリンの岩戸有紀子さんとチェロの船田裕子さん、さらに合唱団ピアニストの金澤亜希子さんが加わって下さいました。演奏者のその真剣な眼差しから、奏でられる美しい音色を聴きながら、これ、同じ曲だったのかしら？と思えるほど、楽器の力と、音楽の素晴らしさが私の体全体に、伝わってくるのを感じました。練習時間は1回2～3時間が4回という行程です。強化合宿というだけに、練習の回を重ねるごとに上達していくことがわかります。団員が「コンサート」という一つの目的に向かって作り上げていくこの時の流れが、私にとって、非日常的で、とても新鮮な時間でした。

いよいよ本番の日、一同、バスに乗り込み、神山教会に向かいます。初めての私は、神山教会ってどんな教会なのだろう？ エアコンはあるに違いないと思いつつ、ある方にお聞きしたところ「エアコンなんかないです」とのお答。えー本当、今時、そんな教会があるのと思っているうちに到着。教会は野尻湖畔の大きな木々に囲まれた木造の古い建物でした。どなたかが「この教会はまるで『大草原の小さな家』に出てくる教会みたいでしょ」と言われました。まさにそのとお



りでした。

中に入ってみると、うす暗くひやっとした空気を感じ、歩くとミシッ、ミシッと木の床の音、天井は高く、柱もそのままむき出し、当然、雨が降れば雨もりもしそうです。左右の窓から外に眼を向けると、大きな木



の葉がゆらゆらと揺れ、湖畔では欧米人の家族が自然の中で休日を楽しんでいるのが見えます。まだ日本にもこんな教会があったのですね。カナダ人の宣教師が戦後建てた教会と後から知りました。おそらく当時は日本人のために宣教師が遣わされ、多くの方々が集って、主を賛美したのでしょう。

東京バッハ合唱団は、この教会を会場として、バッハのコンサートをほぼ毎年継続して行い、今ではすっかり恒例となり、楽しみに待っていてくださる方々がいらっしやるということを知って、本当に素晴らしいことだと思いました。8月の合宿が野尻湖でなくてはならない訳がここで納得されました。今年は40回目の節目です。無伴奏チェロ組曲第1番に始まって、私達はカンタータ76番《主の栄光を天は語り》を歌いました。それは、会堂に静かに響きわたり、外の蝉の鳴き声も私達の合唱に加わって神様を賛美しているかのようでした。コラール《イエス わが喜び》(カンタータ147番から)は、こぼりのりこちゃんも団員の一人として壇上に上がり、会衆の皆様と共に大合唱となりました。演奏終了後、会場の皆様から笑顔と共に大きな拍手を頂いたことが印象的でした。

今年はお客様が例年を上回るほど多かったとのこと。今回、自然豊かな野尻湖畔国際村の歴史あるコンサートに参加させて頂き、18世紀に作られたバッハの曲を皆様と共に歌ったことで、創造主なる神様に近く感じる事が出来ました。それはドイツ語ではなく、私達の母国語である日本語で歌えたからではないでしょうか。皆様、ありがとうございました。

〈息のあるものはみな、主をほめたたえよ〉

(詩篇 150 : 6) [モテット BWV225 終曲]

## 合宿報告あれこれ

荒井 せつ子 (団員・ソプラノ)

<往路車中>

今年も白井さんご夫妻の車で久保庭さんと同乗させて頂き、桜新町からすでに合宿が始まった様な気分で黒姫まで、渋滞もあって約4時間、楽しいドライブとなりました。様々な会話の中で、今回のようにカン

タータ1曲を団員だけで全部歌うのは初めてではないかという話になり、レチタティーヴォもアリアも、本来ならソリストが歌うところを団員に歌わせてくれる合唱団は、そうそうないよと言うことで、このような機会を与えて下さった大村先生に大いに感謝しました。

黒姫に着いてまず駅に演奏会のポスター掲示をお願いしました。他に駅前の本屋さん、お蕎麦屋さん、スーパー、コンビニ、タクシー乗り場にも掲示をお願いしましたが、毎年のことながらどこも気持ち良く引き受けて下さいました。野尻湖合宿、演奏会40年の実績でしょうか。

#### <練習のこと>

ちょっとカビ臭くて、午後には西日がガンガン当たり、冷房はほとんど効かず、決して心地よい練習場ではありませんが、集中してくると不思議と気にならなくなっていました。今回の神山教会での演目であるカンタータ76番では、ソプラノソロは3番のアリアだけだったので、ちょっと楽をさせていただきました。練習をはじめた頃は「無理、無理！」と言っていたのが、回を重ねるうちに親しみが湧き、今では大好きになっています。

ソプラノは出番が少なかった分、他のパートをじっくり聞くことができ、バス、テノールの超難しいアリアがどんどん上手になっていくのがわかって楽しかったし、アルトの曲はどれも美しく、今回はアルトに移りたいと思った程です。

2日目の午後からチェロの船田さんとヴァイオリンの岩戸さん、ピアノの金澤さんも加わってくださり、カビ臭かった部屋がにわかに雅やかな響きに満ち溢れ、翌日の本番への期待が高まってきました。

#### <ミニコンサートのこと>

①松尾さんのソロ「2人の擲弾兵」(シューマン、詩



■写真提供 (p. 3-4) : 松尾茂春氏 (団員)

ハイネ)、ピアノ伴奏・文子夫人。

②久保庭さんのソロ「鳩の使い」(シューベルト)、伴奏・金澤さん。

③小堀徳子ちゃんと信森さんの斉唱「おもいでのアリア」「まっかな秋」「となりのトトロ」、徳子ちゃんによる詩の朗読「かなかなぜみ」(北原白秋)。

④加藤さんのソロ「主よ 御手をのべたまえ」(ヘンデル)、伴奏・風岡さん。

⑤白井均さんと風岡さんのフルート二重奏「聖霊の踊り」(グルック)、バッハ「カンタータ208番アリア」より「時の歌」、ピアノ伴奏・信森さん。

⑥小海さんのソロ「死んだ男の残したものは」(武満徹、詩・谷川俊太郎)

⑦川合さん、ピアノ弾き語り「枯れ葉」フランス語と日本語で。

最後に参加者全員で「枯れ葉」と「ラ・メール」。

なんと多彩なプログラム！出演者全員の日頃の鍛錬と曲に対する熱い思いが伝わってきて、じーンときてしまいました。特に最近の日本の世相のせいか、①と⑥には何となく反戦のメッセージを感じました。3曲も歌って詩の朗読もしてくれた小堀徳子ちゃんの積極性を大に見習いたいものです。

#### <演奏会のこと>

当日の朝、馳せ参じた団員も加わってテノールは4名となり、ソプラノ6名、アルト6名、バス7名、聴衆は50名余の演奏会となりました。

ヴァイオリンとチェロが加わったことでリズムに乗りやすくなり、第1曲の合唱はいきいきと気持ち良く歌え、パートごとのレチタティーヴォやアリアも、少人数のためか集中していて緊張感があって、聴衆を引き付けていました。今回は、例年より客席からステージに向かってカメラのフラッシュが沢山瞬いたように感じましたが、これは徳ちゃん効果でしょうか。帰宅してから松尾さん配信の録音を聴いて、12月の定演の成功を予感しました。

#### <ソプラノ部屋と宿舎のこと>

練習から部屋に戻ると家族のこと、美容のこと、ファッションのこと、恋愛観等々、話は尽きず気が付くと集合時間になっていて、いつも慌てていました。カフェ・カピタンへお茶をしに行く時間も、ボートに乗

#### <終了報告>

第40回野尻湖コンサート「バッハ作品の午後」

2013年8月10日(土)4:00 PM、神山教会(野尻湖・国際村)

—

ヴァイオリン:岩戸有紀子、チェロ:船田裕子、ピアノ:金澤亜希子  
合唱:東京バッハ合唱団、指揮:大村恵美子

—

◇《無伴奏チェロ組曲 第1番》BWV1007より  
(プレリュード・メヌエット・ジーク)

◇カンタータ第76番《主の栄光を 天は語り》前半  
—休憩—

◇カンタータ第76番《主の栄光を 天は語り》後半  
◇コラール《イエス わが喜び》BWV147 番より

[合宿]8月8日(木)~11日(日)、野尻レイクサイドホテル

[参加者](指揮と演奏)大村、岩戸、船田、金澤(上記)

(団員)S 荒井・川合・小林・小堀・信森・松尾・百鳥(7名)、A 粟田・小野・風岡・佐藤・白井・高野(6名)、T 大村・小海・宮城・村山(4名)、B・岡村・加藤・久保庭・白井・鈴木・松尾・森永(7名)

る時間もなかったのは、おしゃべりしすぎたからでしょうね。

野尻レイクサイドホテル（旧野尻湖ハウス）はいろいろ手を加えて設備を整えて下さっていますが、高齢化が進んでいる団員には少々不満の声も聞こえます。40年来のお付き合いがあり、神山教会の演奏会のことを考えると簡単に宿舎の変更はできそうもありませんが、今後の課題としたいです。

幹事を務めて下さったアルトの皆様、本当に有難うございました。

---

## 新・刊・紹・介

### 下田 淳 [著] 『ヨーロッパ文明の 正体』

—何が資本主義を駆動  
させたか

(筑摩選書・2013年5月刊)



大村 恵美子 (主宰者)

何とも無様な民主党政権の退場と、いかがわしい自民党の阿部政権の再登場、隣国との関係悪化、ますます強まるアメリカへの一方的隷属化。こんな最高に暑苦しい(41℃!)夏のさなか、首相は「何より国民のみなさんを第一に尊重して、政策の実現を加速させてゆきます」と言い放って、夏休みに入ったものである。現実には、アメリカと官僚・政治屋べったり、零細庶民を無視から切捨てへ、の本音だけにしかりアリティーが感じられない。

さらに苛立たしいことには、このような太一強体制に対して、われら個人は、与野党どちらにも活路を見いだせず、唯一の権利行使手段たる選挙も自ら棄権し、逃げまくるだけである。

1960年生まれはこの著者に、私は何の先入知識も縁もなく、ただ新聞広告で知ったばかりで読むことにした。

世界中でヨーロッパだけが、「貨幣関係のネットワーク」形成に成功して、資本主義を育てられたのは、平地の多い生活圏で人口が均等に散在していたことが有利に作用し、市場も散在して形成されやすかったから。他の地域での絶対的権力支配体制に対して、ここでは諸権力の競合体制がそれを助ける。このような、ヨーロッパの人口と権力の棲み分けが市場の棲み分けを促進し、「万民が富の分配に与るチャンス」つまり、富の棲み分けを生んだ——。こんな視点から、著者は、先

行文明が野蛮な極致と見なしていたヨーロッパの独自性をとらえ、近代・現代へとその推移をえがく。

幕末・明治維新から、突如世界にしゃしゃり出てきた日本は、ヨーロッパ同様、中国・インド・メソポタミア等に跋扈した、先行の大独裁国家群の文化を、末端の地で受けとめて、ある程度まで資本主義の地ならしをしていた。そして、直近の欧米近代をターゲットに、猛然と富国強兵路線を突っ走り、身のほど知らずの戦いを挑んで、頓死しかかったのだった。

あらゆるものを数値化することを強制する「理系型資本主義」。輪切りにされたように「整理整頓」(能動的棲み分け)を強制するスケジュールとマニュアルに縛られた生活。経済的のみならず精神的にも「キツさ」が加速して、精神疾患や自殺者ばかり増加する社会。現在の日本、中国、アメリカ、ヨーロッパ等への著者の短評に、私はほぼ共感できるように思う。この今の時点で、日本は、忘れていた何を思い出すべきか、予感しているだけの何を現実化してゆくべきか。すべてはまだ乏しい指示ではあるが、私には、強い示唆を含んでいるようにとれる。投げ捨ててはいけない、注意深くしかも毅然として前進してみよう、という力を与えてくれるように思い、広くおすすめしたい気になった。

たった3泊4日ではあったが、例年のごとく野尻湖に合宿して、器楽と合唱を和したコンサートをして、きらきら光るさざ波にゆられて、何か私たちは日本の将来に、多少なりのひらめきを覚えなかっただろうか。

(2013. 8. 13 記)

---

## お・た・よ・り

小海 基 (団員T、荻窪教会牧師)

トマス教会につきました。響きはすごいですね。今日は新オルガンのコンサートを聴く予定です。

トマナコアの助っ人2人がテナーに加わっただけで、迫力が倍増したのは、さすがです。私たちはドイツ語なまりのラテン語ということで「ドナ・ノーヴィス・パーツェム」と歌うように指導されてきたのですが、トマナコアの青年は「パーチェム」と歌っていたのには笑ってしまいました。

日本は暑いようですね。こちらは寒いです。8/22

\*

[小海氏は、休暇を得て奥様と欧州旅行に出られ、ライプツィヒ聖トマス教会での《ロ短調ミサ曲》公演(8/25、福島章恭指揮・東京ジグフェライン公募)にも出演なさいました。同公演には、他に米山毅・邦子ご夫妻(B/S)、與語基宏氏(元団員T・後援会員)も参加されました。]

## 《ヨハネ受難曲》集中練習 終る

### 猛暑のなか、来春にそなえて

8月後半の3回の土曜日、午後1時から6時まで行われた特別練習は、40度近くにも及んだ今夏の気象にもかかわらず、大きな成果をあげて完了しました。8/17 荻窪教会、8/24 世田谷平安教会、8/31 荻窪教会。

練習参加者は平均30名、そのうち3回皆出席者が16名(S5、A6、T2、B3)という健闘ぶり。無理は禁物、と危惧しながらも、仲間といっしょに集中・努力のおかげで、手にとるような効果を体験できる充実感で、暑さを忘れました。エヴァンゲリストの語りの部分を口語訳聖書のテキストにさしかえた冊子を携えて、作品全体の筋立ての把握を容易にしたのも効果がありました。

皆勤賞には、表彰状も賞品もどこからも用意できませんでしたが、せめてそのお名前を月報にとどめて、来年3月定演の核となって働かれることを期待しましょう。秋からは、この《ヨハネ受難曲》をいちど離れて、《クリスマス・オラトリオ》後半の仕上げにかかります。さらに多数の新入団員が加わってくださることを、切に希望します。

### 猛暑特訓皆勤顕彰

S: 荒井せつ子、小口真知子、百鳥洋子、小林順子、梅澤和子 A: 高野京子、小野久美、白井昭子、風岡和子、小山輝美、佐藤啓子 T: 大村健二、村山英司 B: 森永毅彦、白井均、久保庭重雄

#### <次々回公演>

### 《ヨハネ受難曲》

第110回定期演奏会 創立50周年記念公演 [5]  
バッハ4大合唱作品 [日本語] 連続演奏 (最終回)

2014年3月15日(土)、13:30開演  
杉並公会堂大ホール

鏡 貴之 (Ev g)、渡邊 明 (Jesus)、光野孝子 (S)  
佐々木まり子 (A)、鳥海 寮 (T)、藪西正道 (B)  
東京カンタータ室内管弦楽団、草間美也子 (Org)  
東京バッハ合唱団、大村恵美子 (指揮)

#### <合唱参加者募集、各パート若干名>

前期の練習は終了しました。後期は第109回定演終了後ただちに始まります。詳細はHPを参照くださるか、事務局までお問い合わせください。

目白(月曜日): 年内12/9、12/16。年明け1/6から。  
荻窪(土曜日): 年内12/14、12/21。年明け1/11から。

- ◆月曜日(目白聖公会 18:30 - 20:30) JR「目白」
- ◆土曜日(荻窪教会 15:30 - 17:30) JR/東京メトロ「荻窪」

## バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑧

BWV 76<sup>①</sup> 《主の栄光を 天は語り》<sup>②</sup> (1723)<sup>③</sup>

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes<sup>④</sup>

【教会暦】<sup>⑤</sup>三位一体節後第2日曜日<sup>⑥</sup> (他に=BWV 2)<sup>⑦</sup>

[書簡]<sup>⑧</sup>第1ヨハネ 3:13-18。BWV 2に同じ<sup>⑨</sup>。

[福音書]<sup>⑩</sup>ルカ 14:16-24。(同上)

#### <カンタータと聖句の関係>

教会カンタータは、おもに17・18世紀ドイツ・プロテスタント教会の各日曜・祝祭日の礼拝のなかで演奏された典礼音楽。年間のすべての日曜日と祝祭日は、教会暦のなかに位置づけられ、その日の礼拝で奉読される箇所が、新約聖書の「使徒書簡」(使徒パウロの書簡など)および「福音書」(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの4福音書)から各1か所が定められている。礼拝説教の内容とカンタータの主題は、これらの章句(聖書日課=ペリコーペ)に基づいて構成された。したがって、バッハの各カンタータ作品を解釈し、深く味わうためには、教会暦のどの日のための作品であるか、その日に読まれた章句は何か、を知ることが重要になる。

#### <凡例>

①バッハ作品番号(カンタータ番号と同じ。成立の順とは無関係) / ②日本語曲名(大村恵美子訳詞) / ③成立年代 / ④原詞曲名(冒頭歌詞による) / ⑤キリスト教会の年間の暦(バッハに関しては、18世紀ドイツのプロテスタント教会の慣行に基づく)。教会暦の1年は、待降節(クリスマス=12/25の4週前の日曜日)に始まる。 / ⑥「三位一体」(父なる神、子なるキリスト、聖霊は、一つの神が三つの姿となって現れたものであるとする教義)。「-節」(それを記念する祭日、聖霊降臨の1週間後)。「-後第2日曜日」(その祝日から2回目の日曜日)。 / ⑦バッハは、年ごとの同じ教会暦のために複数のカンタータを残していることがある。それらを列記する。 / ⑧・⑩は上記(ただし「使徒書」の一部に旧約イザヤ書)。聖書中の書名は略記。第1ヨハネ 3:13-18は、ヨハネの手紙一、3章13節-18節。書かれている章句の概要を記した。 / ⑨同じペリコーペは重複を避けた。

BWV 77 《主を愛すべし 心のかぎり》(1723)

Du sollt Gott, deinen Herren, lieben

【教会暦】三位一体節後第13日曜日(=BWV 33, 164)

[書簡]ガラテヤ 3:15-22。BWV 33に同じ。

[福音書]ルカ 10:23-37。(同上)

BWV 78 《イエス わが心を》(1723)

Jesu, der du meine Seele

【教会暦】三位一体節後第14日曜日(=BWV 17, 25)

[書簡]ガラテヤ 5:16-24。BWV 17に同じ。

[福音書]ルカ 17:11-19。(同上)

BWV 79 《神は わが光 わが盾》(1725)

Gott der Herr ist Sonn und Schild

【教会暦】宗教改革記念日(10/31固定)(=BWV 80)

[書簡]第1テサロニケ 2:3-8。わたしたちは、キリストの使徒として権威を主張することができた。

[福音書]黙示録 14:6-8。神を畏れ、その栄光を讃えなさい。神の裁きの時が来たからである。

BWV 80 《堅き砦ぞ わが主は》(1724)

Ein feste Burg ist unser Gott

【教会暦】宗教改革記念日(10/31固定)(=BWV 79)

[書簡]第1テサロニケ 2:3-8。BWV 79に同じ。

[福音書]黙示録 14:6-8。(同上)

BWV 80a 《すべて神によりて生まれしものは》(1715)

Alles, was von Gott geboren

【教会暦】復活節前第4日曜日 Oculi(=BWV 54)

[書簡]エフェソ 5:1-9。BWV 54に同じ。

[福音書]ルカ 11:14-28。(同上)

BWV 81 《主イエス眠り いかによすべき》(1724)

Jesus schläft, was soll ich hoffen?

【教会暦】顕現節後第4日曜日(=BWV 14)

[書簡]ローマ 13:8-10。BWV 14に同じ。

[福音書]マタイ 8:23-27。(同上)

BWV 82 《われ 足れり》(1727)

Ich habe genug

【教会暦】マリアの潔めの祝日(2/2固定)(=BWV 83, 125, 200)

[書簡]マラキ 3:1-4。彼はレビの子らを清め、金や銀のように汚れを除く。

[福音書]ルカ 2:22-32。シメオンは幼子を腕に抱き、神を讃えた。

BWV 83 《うれしき この時》(1724)

Erfreute Zeit im neuen Bunde

【教会暦】マリアの潔めの祝日(2/2固定)(=BWV 82, 125, 200)

[書簡]マラキ 3:1-4。BWV 82に同じ。

[福音書]ルカ 2:22-32。(同上)